

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍（新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原理・法則や基礎的な仕組みについて、図などを効果的に掲載し科学的根拠に基づく知識及び技能が身に付くよう工夫がなされている。 ・ 多様な問題解決例を数多く取り上げ、個々の課題設定や課題解決に生かすことができるよう配慮がなされている。 ・ 今日の社会で問題にされている課題に取り組む技術を紹介することで、生徒の興味・関心が高まるよう配慮がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身の回りの問題解決から社会の問題解決まで、基礎・基本から応用・発展へと学べるよう、単元構成の工夫がなされている。 (2) 「問題解決例」や「社会の発展と技術」等の身近な例から、生活を工夫し創造することができるような題材構成の工夫がなされている。 (3) 「技術のめがね」「最適化の窓」「技術の工夫」などの身近な例を掲載し、興味・関心をもった追究ができるよう工夫がなされている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイントを、ガイドンスや「安全」マーク、「衛生」マークで記し、安全面・衛生面への配慮がなされている。 (5) さし絵・写真・図表・配色等が鮮明で、本文はユニバーサルデザインフォントを使用している。実習例等を見開き2ページに大きく表示し、学習の見通しが持てるよう配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイドンスで、3年間で身に付く資質・能力について、小学校での学習や、他教科との関連がつかめるよう配慮がなされている。 (2) 生活や社会と技術との関わりや、「すごいぞ！技術」で各内容に関連する最先端の技術を紹介することで、生活との関連性や社会変化に対応した技術に関心をもてるよう配慮がなされている。 (3) 各編の導入において、身の回りの製品や社会における技術の最適化について取り上げ、「技術の見方・考え方」によって、既存の技術の工夫を読み取ることができるよう配慮がなされている。 (4) 個別に調べたり他者と学び合ったりする場面を設定することで、原理、技術の工夫について他者と関わり合いながら主体的に学ぶことができるよう配慮がなされている。 (5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、文章と関連をもたせた構成になっており、随所に二次元コードを配置することで、具体的に学習を広げられるよう配慮がなされている。 (6) 節の冒頭に観点別評価につながる目標を示し、編末には評価の観点に沿った設問を掲載することで、生徒が身に付けた資質・能力を確認できるよう工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題発見・解決の流れや道筋を丁寧に示し、テーマに即した学習の進め方や学び方がわかりやすくなるよう工夫がなされている。 ・ 生徒の学びと社会課題をつなぐ具体例を提示し、将来に渡って技術と生活の関わりを考えられるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">教育図書（新技術・家庭 技術分野 明日を創造する）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の流れが意識しやすい配列になっており、学習意欲の喚起、自主的な学び、学習理解の確認ができるよう工夫がなされている。 ・ 問題解決の流れを4ステップでまとめ、生徒が見通しをもち、自己調整しながら問題解決の力を養うよう配慮がなされている。 ・ 生徒自身の問題解決から目線を広げ、社会の発展と技術について多面的に評価し、活用する態度を育めるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業時数や生徒の発達段階などに配慮し、学習指導要領の内容に沿って系統的に学習できるよう配列されている。 (2) ガイダンスや各章で、「見つける」「学ぶ」「振り返る」等の身近な問題から、生活を工夫し創造することができるよう題材構成の工夫がなされている。 (3) 「スゴ技」や「技ビト」のコラムにより、生活や社会の中で使用される技術に興味・関心をもてるよう工夫がなされている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイント、実習時の服装等を示したり、「安全」、「衛生」マークで記したりするなど、安全面・衛生面への配慮がなされている。 (5) さし絵・写真・図表・配色・文字が鮮明で、ユニバーサルデザインを意識した構成になっている。レイアウトは見開きを有効に活用しており、本文とそれ以外の資料との区別が明確である。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンスや各編の冒頭などに関連マークを用いて、他教科や小学校の学習との関連がつかめるよう配慮がなされている。 (2) 「環境」マーク、「共生」マーク、SDGsの目標に対応したマークを適所に記すことで環境への意識を高め、持続可能な社会に対応していく態度が身に付くよう配慮がなされている。 (3) 各編で、「技術の見方・考え方」を働かせ、「見つける」「学ぶ」「振り返る」という学習の流れを積み重ねることで主体的・対話的で深い学びにつながるよう配慮がなされている。 (4) 想像しやすい発問を対話形式で掲載し、調べたり、考えたりしたくなるような「やってみよう」を配置するなど、他者と関わり合いながら主体的に学ぶことができるよう配慮がなされている。 (5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、説明やタイトルなどが記述されており、各編扉に伝統的な工芸や新技術等も幅広く取り扱えるよう配慮がなされている。 (6) 各章、各編の終わりには学んだことをまとめる内容や、評価の観点に沿ったまとめ問題がそれぞれ配置されており、内容を確認できるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な事例から問題発見・解決の流れを学ぶページがあり、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう工夫がなされている。 ・ 身近なテーマに関わる資料を豊富に掲載することで、興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高められるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	 開隆堂（技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や環境と技術の関わりについて理解を深めながら、知識及び技能が身に付くよう工夫がなされている。 ・ 学習課題を明示することで生徒の問題意識を高め、自ら解決しようとする能力を養うよう配慮がなされている。 ・ 技術の在り方や活用の仕方を客観的に判断・評価し、主体的に活用する態度を育むよう配慮がなされている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の生活経験や発達段階及び授業時数などを考慮して各内容が系統的に学習できるよう配列されている。 (2) ガイダンスや各内容の中で、「見てみよう」「調べてみよう」等の身近な問題から、生活を工夫し創造することができるような題材構成の工夫がなされている。 (3) 各内容で具体的な製品から仕組みなどを考えるようになっており、興味・関心をもって学習できるよう工夫がなされている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止について、全体像をイラストで記したり、ポイントを「安全」マークで記したりするなど、安全面への配慮がなされている。 (5) さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で、ユニバーサルデザインフォントを使用している。レイアウトは見開きを有効に活用しており、資料との区別が明確になるよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 小学校や他教科との関連をとびらページで示し、学年・教科等横断的なカリキュラムを構成しやすいう配慮がなされている。 (2) 最先端技術や、現代技術の課題や問題点について考えさせられる話題が取り上げられており、将来的にも技術に関心や課題意識をもてるよう配慮がなされている。 (3) ガイダンスページで「技術の見方・考え方」を取り上げ、各内容でそれを働かせる授業展開になっており、既存の技術を、「技術の見方・考え方」で読み解くことができるよう配慮がなされている。 (4) 「実験」や「ワークシート」が随所に配置されており、他者との関わり合いをもちながら主体的に学ぶことができるよう配慮がなされている。 (5) さし絵、写真、図表、配色等は分かりやすく、生徒目線のアングルで撮影した写真が使用されるなど、学習を広げる配慮がなされている。 (6) 各学習項目の最後に「CHECK」、内容の終わりに「学習のまとめ」を設け、学習内容の確認や、技術の仕組み、工夫の評価と、学びを深める発展的なまとめができるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「技術の見方・考え方」を理解した上で、実際にそれをどのように働かせるかを考えられるよう、全体の構成が工夫がされている。 ・ 身近にある技術の話題を豊富に扱い、技術と社会のつながりの理解を深められるよう工夫がなされている。